

様式 3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部 ・学科等 の名称	専任教員数								非常 勤教 員	専任教員 一人あた りの在籍 学生数	備考
	教 授	准 教 授	講 師	助 教	計	基 準 数	うち	助 手			
							理学療法士又は 作業療法士数				
作業療法科	人	人	人	人	人	6人	6人	人	30人	18.6人	
計	人	人	人	人	人	6人	6人	人	30人	—	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】 養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当コ マ数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・ 兼任)
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	情報科学	15	新井 隆裕	兼任
		統計学	8	大岩 照宜	兼任
		心理学	8	菅 吉基	兼任
		教養学	8	野村 斉史	兼任
		レクリエーション学Ⅰ	11	安河内 典子	兼任
			4	天野 順一郎	兼任
		レクリエーション学Ⅱ	12	勝 里永子	兼任
			3	田中 敏彦	専任
		英語Ⅰ	8	Andrew McKernon	兼任
		英語Ⅱ	8	Andrew McKernon	兼任
		社会学	15	山口 宏	兼任
		国語学	8	木村 映美	専任
		美術学	8	山附 貴世香	兼任
専門基礎 分野	人体の構造と機能 および心身の発達	解剖学Ⅰ	30	桑原裕子	兼任
		解剖学Ⅱ	30	桑原裕子	兼任
		生理学Ⅰ	30	中村 浩	兼任
		生理学Ⅱ	30	中村 浩	兼任
		運動学Ⅰ	30	本多 亜希子	専任
		運動学Ⅱ	30	角本 裕之進	専任
		人間発達学	15	田中 敏彦	専任
	疾病と障害の成り 立ち及び回復過程 の促進	病理学	15	中村 浩	兼任
		看護学	15	鷺見 三重子	兼任
		内科学	15	齋藤 研	兼任
		神経内科学	15	益田 健史	兼任
		小児科学	15	益田 健史	兼任
		整形外科	15	大塚 嘉久	兼任
		臨床心理学	15	椎野 智子	兼任

専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	精神医学	15	益田 健史	兼任
		薬理学	8	野々垣 常正	兼任
		栄養学	8	太田 侑亜	兼任
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション学	15	山内 太郎	専任
		社会保障制度論	15	葛谷桂司	兼任
専門分野	基礎作業療法学	作業療法概論Ⅰ	15	角本 裕之進	専任
		作業療法概論Ⅱ	8	角本 裕之進	専任
			7	木村 映美	専任
		基礎作業学総論	15	本多 亜希子	専任
		基礎作業学各論Ⅰ	15	田中 敏彦	専任
			15	木村 映美	専任
		基礎作業学各論Ⅱ	30	田中 敏彦	専任
	基礎作業学各論Ⅲ	15	木村 映美	専任	
	作業療法管理学	作業療法管理学	2	田中 敏彦	専任
			5	坂上 隼大	兼任
			8	山内 太郎	専任
	作業療法評価学	精神障害評価学	30	田中 敏彦	専任
		老年期障害評価学	11	本多 亜希子	専任
			4	角本 裕之進	専任
		発達障害評価学	8	小山 和代	兼任
			7	田中 敏彦	専任
		身体障害評価学Ⅰ	12	山内 太郎	専任
			10	角本 裕之進	専任
	8		本多 亜希子	専任	
	身体障害評価学Ⅱ	15	角本 裕之進	専任	
	作業療法治療学	精神障害治療学Ⅰ	30	木村 映美	専任
		精神障害治療学Ⅱ	7	田中 敏彦	専任
			8	木村 映美	専任
		老年期障害治療学	16	山内 太郎	専任
			4	角本 裕之進	専任
			6	鷲見 三重子	兼任

専門分野	作業療法治療学	老年期障害治療学	2	野田 雅俊	兼任
			2	田中 敏彦	専任
		発達障害治療学	7	小山 和代	兼任
			8	田中 敏彦	専任
		身体障害治療学Ⅰ	30	本多 亜希子	専任
		身体障害治療学Ⅱ	30	角本 裕之進	専任
		日常生活活動学Ⅰ	15	本多 亜希子	専任
		日常生活活動学Ⅱ	15	山内 太郎	専任
		義肢装具学	15	石井 寛隆	兼任
		職業関連活動学	15	山内 太郎	専任
		作業療法臨床能力演習	15	田中 敏彦	専任
		作業療法臨床研究Ⅰ	15	木村 映美	専任
	作業療法臨床研究Ⅱ	45	山内 太郎	専任	
	地域作業療法学	地域リハビリテーション学	7	山内 太郎	専任
			15	津金 芙蓉子	兼任
			2	坂 謙太郎	兼任
			6	東 久也	兼任
		生活環境学	15	山内 太郎	専任
		地域作業療法学	15	山内 太郎	専任
	臨床実習	臨床実習Ⅰ	45 (時間)	山口冴香	専任
米山 春菜				兼任	
臨床実習Ⅱ		135 (時間)	本多 亜希子	専任	
臨床実習Ⅲ	720 (時間)	本多 亜希子	専任		

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
通所リハビリテーションの見学	1年後期	リハビリテーション学	1年前期
		作業療法概論Ⅰ	1年前期
		地域リハビリテーション学	2年通年
		地域作業療法学	2年前期
作業療法評価の見学・模倣・実施	2年後期	身体障害評価学Ⅰ	1年後期
		身体障害評価学Ⅱ	2年前期
		精神障害評価学	1年後期
		老年期障害評価学	2年前期
		発達障害評価学	1年通年
		作業療法臨床能力演習	2年後期
		作業療法臨床研究Ⅰ	2年後期

作業療法治療の見学・模倣・実施	3年通年	身体障害治療学Ⅰ	2年後期
		身体障害治療学Ⅱ	2年後期
		精神障害治療学Ⅰ	2年前期
		精神障害治療学Ⅱ	2年後期
		老年期障害治療学	2年後期
		発達障害治療学	2年後期
		作業療法臨床能力演習	2年後期
		作業療法臨床研究Ⅱ	3年通年

【自己評価 3-3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	東海医療科学専門学校 自己点検・自己評価委員会
委員名（委員長）	藪本 恭明
組織の開催頻度	1年に1～2回開催
組織の取り組み内容	・自己点検・自己評価の実施、進捗管理
	・自己点検・自己評価結果の検証、最終評価
	・その他
自己点検・評価結果の公表	H Pで公表（URL： <a href="https://www.tokai-med.ac.jp/kagaku/disclosure/">https://www.tokai-med.ac.jp/kagaku/disclosure/</a> ）

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
○	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	作業療法科 シラバス検討会議
	委員構成等	学科長、専任教員
	改善の仕組みの実際	年度末に全シラバスを確認し適宜修正を依頼する。

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

学校関係者評価委員会を開催し、委員会の提言や意見をフィードバックし改善につなげている。リハビリテーション教育評価機構による第三者評価を受審し、2回連続で適格と認定されている。